

2021年度第1四半期 決算説明資料

2021年8月5日
株式会社 神戸製鋼所
証券コード 5406

KOBELCO

1. 2021年度第1四半期 業績概要
2. 2021年度 業績見通し
3. 参考情報

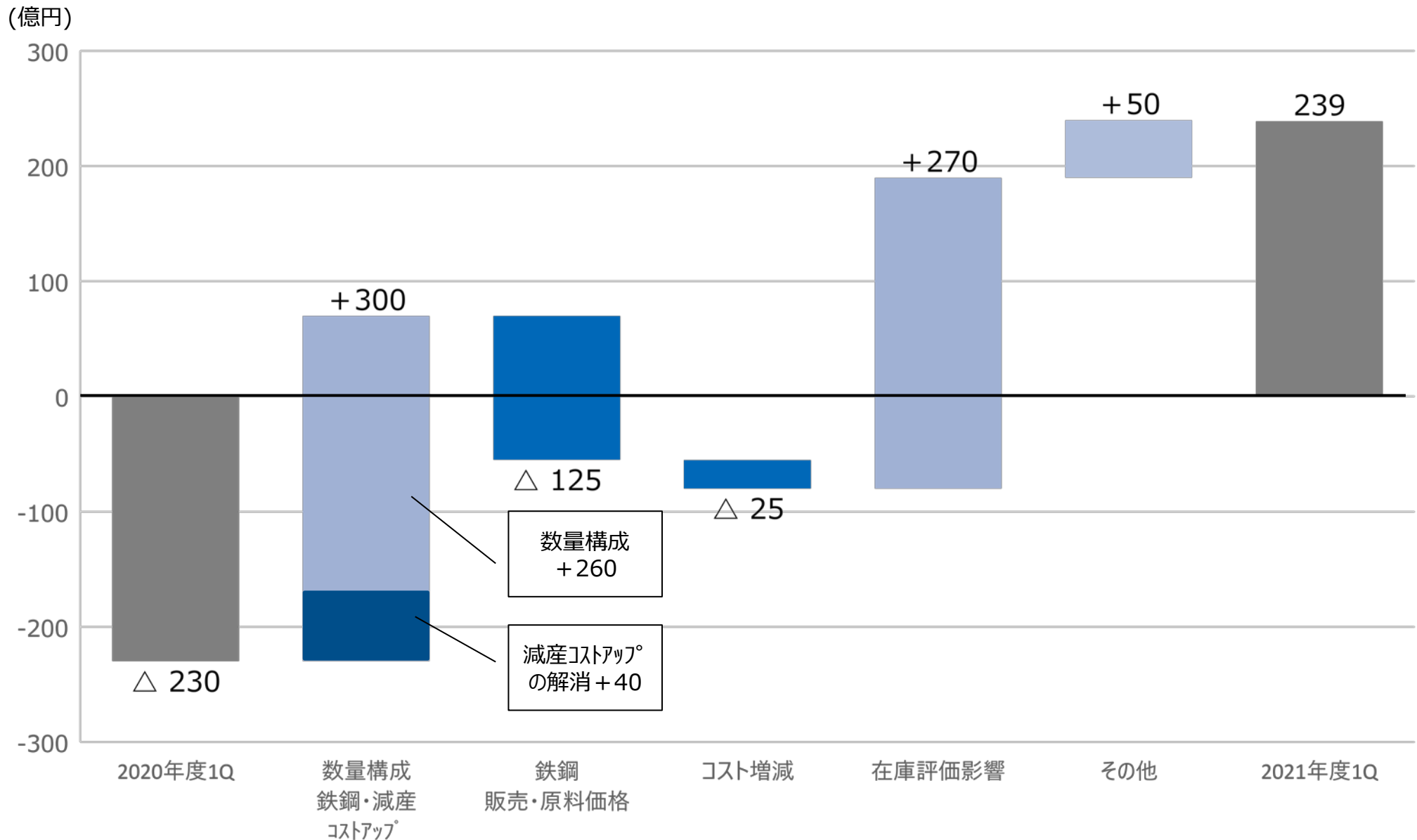
1. 2021年度第1四半期 業績概要

売上高・・・新型コロナウイルス感染症の拡大影響（以下、コロナ影響）を受けた前年同期に比べて、自動車向けを中心に需要が回復し、販売数量が増加したため増収
 経常損益・・・鉄鋼において原料価格の上昇に伴うメタルスプレッドの悪化があるものの、販売数量の増加や、在庫評価影響の好転などにより改善

(単位：億円)

	2020年度 1Q ①	2021年度 1Q ②	増減 ②-①
売上高	3,741	4,632	+ 890
営業損益	△198	248	+ 447
経常損益	△230	239	+ 470
在庫評価影響を除く	△135	64	+ 200
特別損益	※ 160	-	△160
親会社株主に帰属する 当期純損益	△131	189	+ 320

※ 固定資産売却益 97億円
 段階取得に係る差益 32億円
 投資有価証券売却益 31億円



※在庫評価影響には、総平均計算による影響および低価法影響を含む

【売上高】

（単位：億円）

	2020年度 1Q ①	2021年度 1Q ②	増減 ②-①
鉄鋼アルミ	1,495	2,064	+568
素形材	567	748	+180
溶接	180	191	+10
機械	407	350	△57
エンジニアリング	260	246	△14
建設機械	746	935	+189
電力	159	158	△1
その他	49	47	△1
調整額	△126	△111	+15
合計	3,741	4,632	+890

【経常損益】

（単位：億円）

	2020年度 1Q ③	2021年度 1Q ④	増減 ④-③
鉄鋼アルミ	△258	120	+379
素形材	△57	35	+92
溶接	2	8	+5
機械	21	14	△7
エンジニアリング	9	18	+8
建設機械	8	37	+28
電力	31	10	△21
その他	3	2	△0
調整額	7	△7	△15
合計	△230	239	+470

(単位：億円)

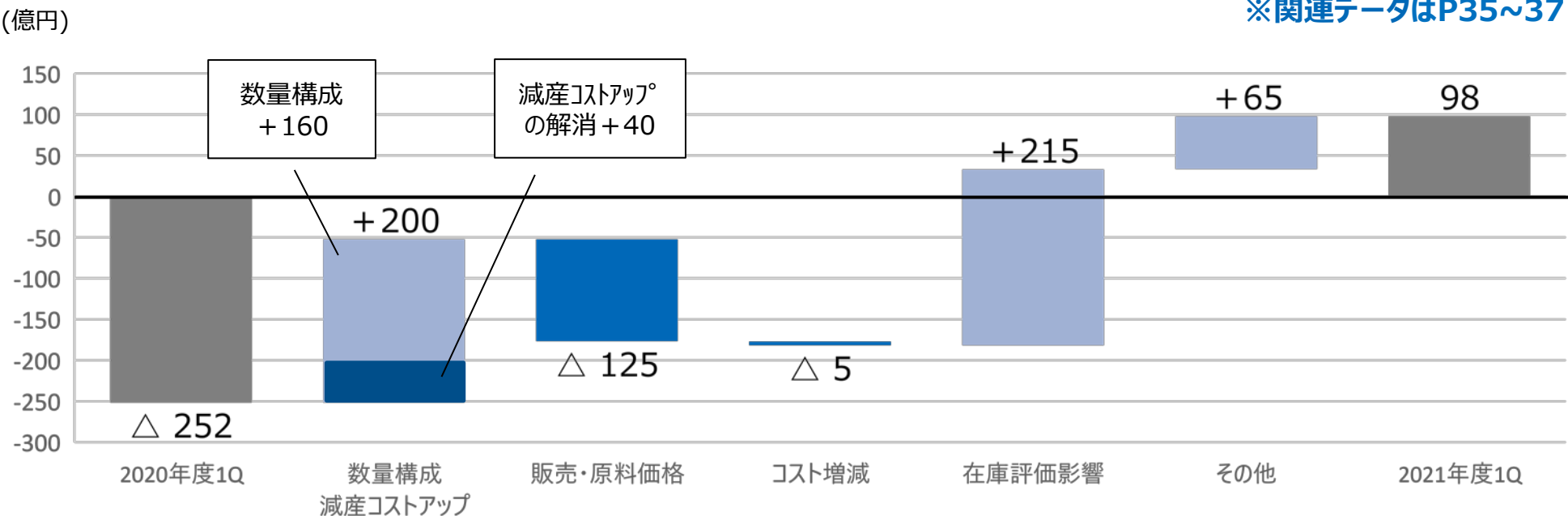
		2020年度 1Q ①	2021年度 1Q ②	増減 ②-①
鉄鋼	売上高	1,175	1,675	+499
	経常損益	△252	98	+350
	在庫評価影響を除く	△177	△41	+135
アルミ板	売上高	319	388	+68
	経常損益	△6	22	+28
	在庫評価影響を除く	8	17	+8
合計	売上高	1,495	2,064	+568
	経常損益	△258	120	+379
	在庫評価影響を除く	△168	△24	+144

鉄鋼

2020年度1Q : △252億円 → 2021年度1Q : 98億円（前年同期比+350億円）

- 粗鋼生産 : 166万t（前年同期比 + 50万t）
- 販売数量 : 136万t（前年同期比 + 39万t）
 - ・コロナ影響からの需要回復により、自動車向けを中心に大幅に増加
- 販売価格 : 90,700円/t（前年同期比 + 10,600円/t）
- 損益変動要因
 - ・販売数量の増加
 - ・原料価格上昇分の販売価格への転嫁時期のずれ影響の拡大などによるメタルスプレッドの悪化
 - ・原料価格上昇や棚卸資産の低価法を計上した前期との段差による在庫評価影響の好転

※関連データはP35~37



※在庫評価影響には、総平均計算による影響および低価法影響を含む

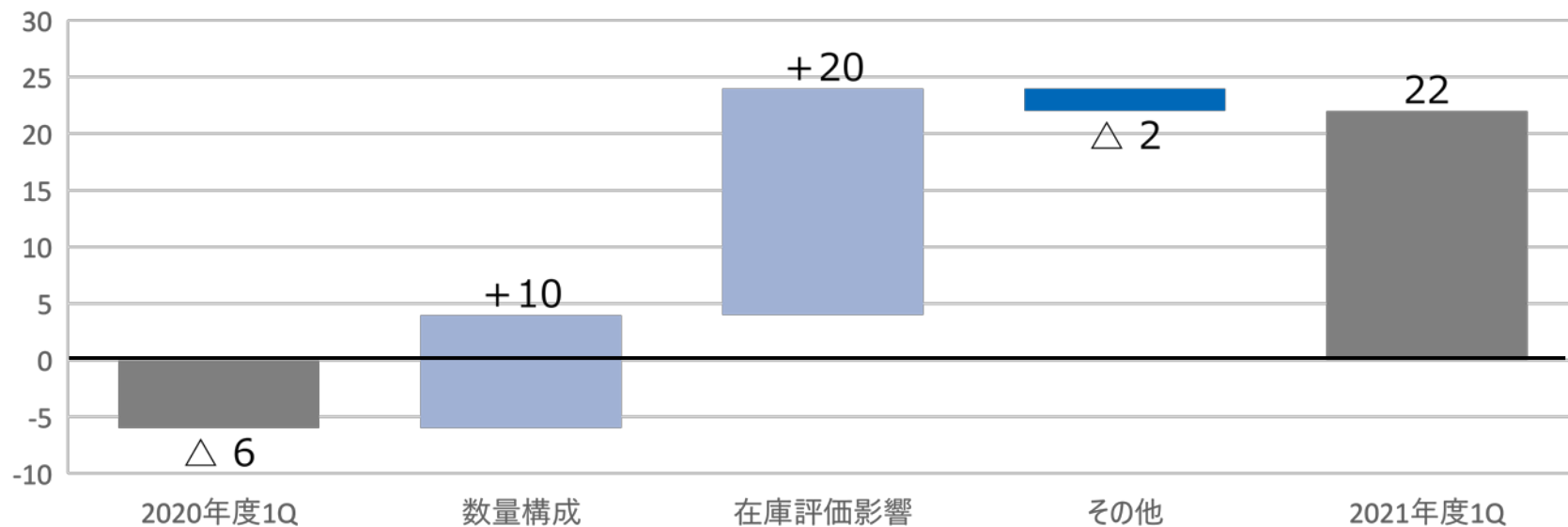
アルミ板

2020年度1Q : △6億円 → 2021年度1Q : 22億円（前年同期比+28億円）

- 販売数量：88千t（前年同期比+15千t）
 - ・飲料用缶材向け：堅調に推移
 - ・IT・半導体向け：半導体製造装置向けを中心に、堅調に推移
 - ・自動車向け：需要回復による増加
- 損益変動要因
 - ・自動車向け販売数量の増加
 - ・アルミ地金市況の上昇に伴う在庫評価影響の好転

※関連データはP36~37

(億円)



※在庫評価影響には、総平均計算による影響および低価法影響を含む

(単位：億円)

	2020年度 1Q ①	2021年度 1Q ②	増減 ②-①
売上高	567	748	+180
経常損益	△57	35	+92
在庫評価影響を除く	△52	5	+57

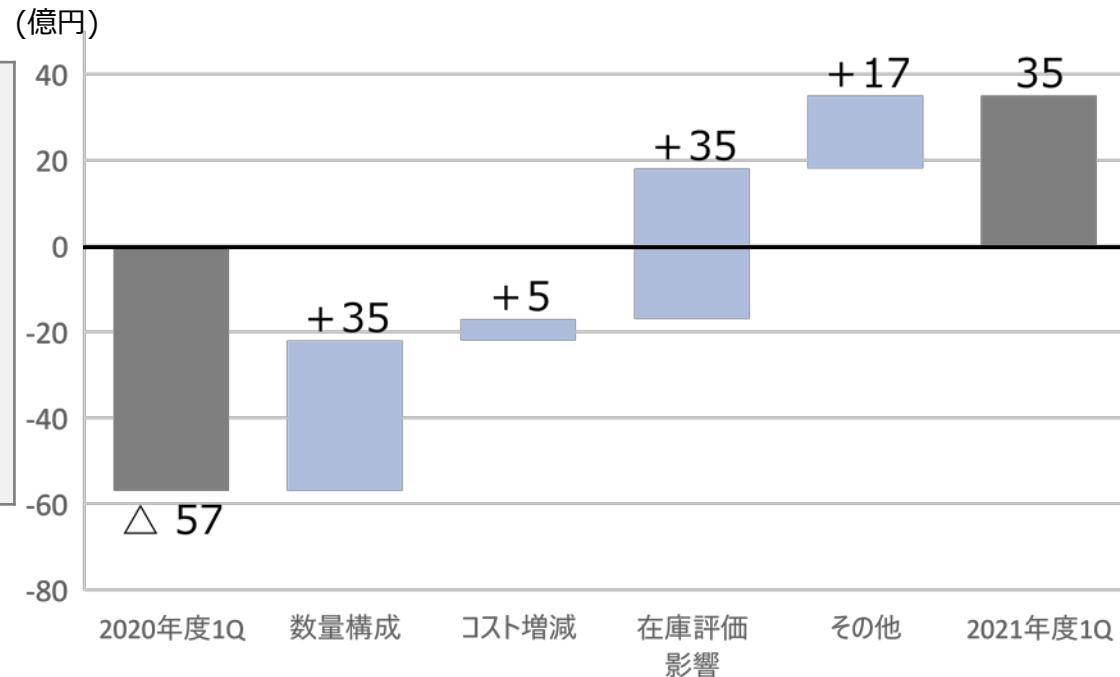
■ 販売数量

- ・自動車向けを中心に増加
(サスペンション、アルミ押出、銅板、鉄粉など)

■ 損益変動要因

- ・販売数量の増加
- ・銅市況の上昇に伴う在庫評価影響の好転

※関連データはP36



※在庫評価影響には、総平均計算による影響および低価法影響を含む

(単位：億円)

	2020年度 1Q ①	2021年度 1Q ②	増減 ②-①
売上高	180	191	+10
経常損益	2	8	+5

■ 販売数量

国内：コロナ影響からの需要回復により、自動車向けなどで増加

海外：コロナ影響からの需要回復により、東南アジアや中国における自動車向け、建設機械向けなどで増加

■ 損益変動要因

- ・販売数量の増加

※関連データはP36

(単位：億円)

	2020年度 1Q ①	2021年度 1Q ②	増減 ②-①
売上高	407	350	△57
経常損益	21	14	△7
受注高	183	384	+200

■ 受注高

- ・設備投資の回復により産業機械・圧縮機ともに増加

■ 損益変動要因

- ・前期の受注がコロナ影響により低調であった影響などにより減益

(単位：億円)

	2020年度 1Q ①	2021年度 1Q ②	増減 ②-①
売上高	260	246	△14
経常損益	9	18	+8
受注高	338	533	+195

■ 受注高

- ・還元鉄関連事業での海外案件、廃棄物処理関連事業での複数案件の受注などにより増加

■ 損益変動要因

- ・案件構成差

(単位：億円)

	2020年度 1Q ①	2021年度 1Q ②	増減 ②-①
売上高	746	935	+189
経常損益	8	37	+28

■ 販売台数

[油圧ショベル]

コロナ影響からの需要回復、およびインフラ投資の拡大により、中国、東南アジアを中心に増加

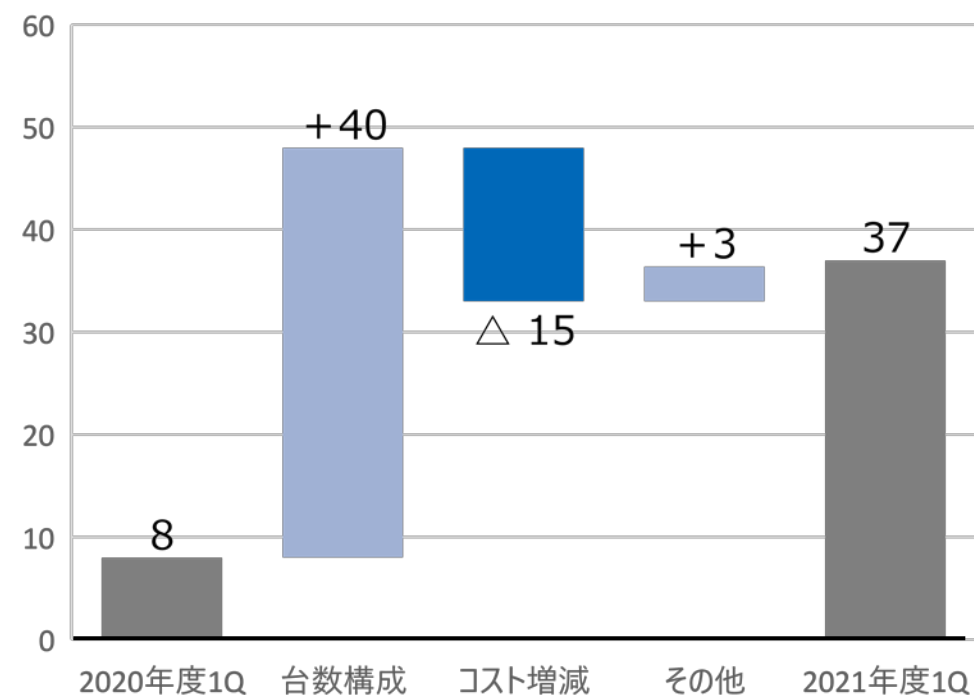
[クローラクレーン]

エンジン認証問題の影響を受けた北米を中心に減少

■ 損益変動要因

- ・販売台数の増加
- ・活動水準の回復に伴う開発費・経費等のコスト増加

(億円)



(単位：億円)

	2020年度 1Q ①	2021年度 1Q ②	増減 ②-①
売上高	159	158	△1
経常損益	31	10	△21

■ 販売電力量 ……減少

- ・真岡発電所の稼働日数が法定点検の実施により減少

■ 販売単価 ……上昇

- ・燃料価格の値上がりによる影響

■ 損益変動要因

- ・真岡発電所の販売電力量の減少などにより減益

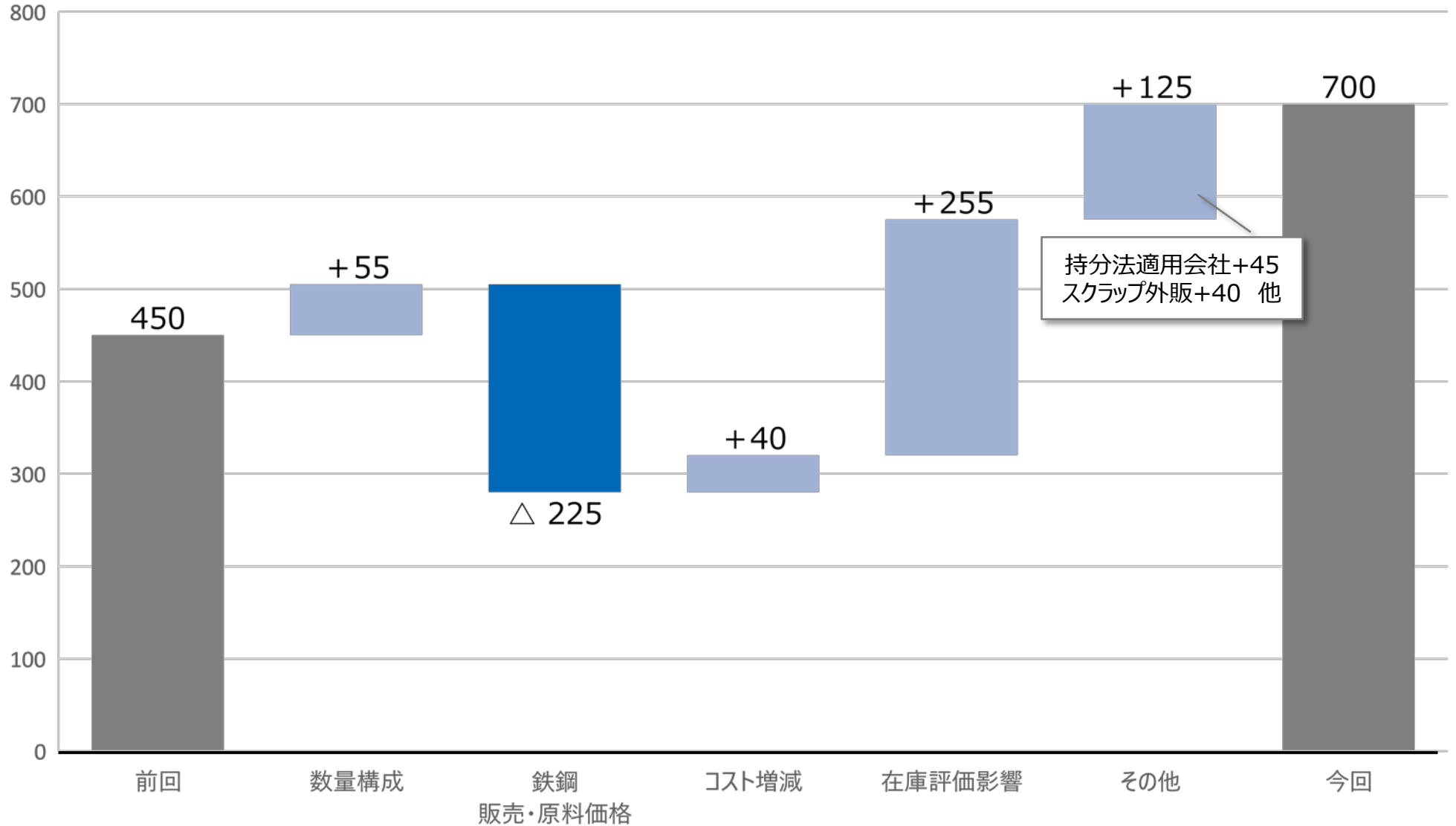
2. 2021年度 業績見通し

- 自動車向けを中心とした需要の増加により、鋼材販売数量の増加を想定
- 原料価格上昇分の販売価格への転嫁時期のずれに伴う影響を見込む
- 原料価格上昇に伴い、在庫評価影響は改善

(単位：億円)

	2020 年度実績 ①	2021年度見通し (前回)			2021年度見通し (今回)			増減	
		上期	下期	②	上期	下期	③	③-①	③-②
売上高	17,055	9,100	9,600	18,700	9,900	10,400	20,300	+3,245	+1,600
営業損益	303	200	350	550	350	450	800	+497	+250
経常損益	161	150	300	450	320	380	700	+539	+250
在庫評価影響を除く	201	20	330	350	85	260	345	+144	△5
特別損益	25	-	-	-	-	-	-	△25	-
親会社株主に帰属する 当期純損益	232	100	150	250	200	200	400	+168	+150

(億円)



※在庫評価影響には、総平均計算による影響および低価法影響を含む

() は需要変動の影響を受けるユニット

自動車	<p>(鉄鋼、アルミ板、サスペンション、アルミ押出、銅板、鉄粉、溶接)</p> <p>1Qで半導体不足の影響が生じているものの、グローバル需要は堅調であること、下期には半導体不足は解消する見込みであることから、通期では前回見通しを上回ると想定。</p> <p>《日系自動車メーカー生産台数(海外含む)の想定(前年同期比)》</p> <table border="1" data-bbox="368 472 1359 644"> <thead> <tr> <th></th> <th>1Q</th> <th>2Q</th> <th>3Q</th> <th>4Q</th> <th>通期</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>前回</td> <td>+70%</td> <td>+5%</td> <td>△5%</td> <td>+5%</td> <td>+13%</td> </tr> <tr> <td>今回</td> <td>+60%</td> <td>+15%</td> <td>—</td> <td>+5%</td> <td>+15%</td> </tr> </tbody> </table>		1Q	2Q	3Q	4Q	通期	前回	+70%	+5%	△5%	+5%	+13%	今回	+60%	+15%	—	+5%	+15%
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期														
前回	+70%	+5%	△5%	+5%	+13%														
今回	+60%	+15%	—	+5%	+15%														
航空機	<p>(アルミ鋳鍛、チタン)</p> <p>旅客需要の減少により、今後数年間は市場は低迷すると想定。</p>																		
造船	<p>(鉄鋼、鋳鍛鋼、溶接)</p> <p>国内の新造船受注量は回復基調にあるが、厳しい状況が継続すると想定。</p>																		
飲料缶	<p>(アルミ板)</p> <p>2020年度に引き続き、需要は堅調に推移すると想定。</p>																		
IT・半導体	<p>(アルミ板、銅板)</p> <p>旺盛な需要が継続すると想定。</p>																		
建築土木	<p>(鉄鋼、溶接)</p> <p>建築分野の需要は依然低迷しているものの、前回想定よりも回復基調。</p>																		

【売上高】

(単位：億円)

	2020 年度実績 ①	2021年度見通し (前回)			2021年度見通し (今回)			増減	
		上期	下期	②	上期	下期	③	③-①	③-②
鉄鋼アルミ	6,963	3,950	4,100	8,050	4,260	4,540	8,800	+1,837	+750
素形材	2,381	1,350	1,450	2,800	1,570	1,630	3,200	+819	+400
溶接	700	330	360	690	370	380	750	+50	+60
機械	1,753	790	860	1,650	860	840	1,700	△53	+50
エンジニアリング	1,361	600	810	1,410	600	820	1,420	+59	+10
建設機械	3,331	1,900	1,700	3,600	2,040	1,860	3,900	+569	+300
電力	804	310	480	790	340	500	840	+36	+50
その他	278	110	160	270	120	160	280	+2	+10
調整額	△517	△240	△320	△560	△260	△330	△590	△73	△30
合計	17,055	9,100	9,600	18,700	9,900	10,400	20,300	+3,245	+1,600

【経常損益】

(単位：億円)

	2020 年度実績 ①	2021年度見通し (前回)			2021年度見通し (今回)			増減	
		上期	下期	②	上期	下期	③	③-①	③-②
鉄鋼アルミ	△226	110	140	250	140	260	400	+626	+150
素形材	△121	△10	20	10	25	5	30	+151	+20
溶接	17	0	10	10	5	5	10	△7	-
機械	114	0	35	35	25	25	50	△64	+15
エンジニアリング	44	15	30	45	25	30	55	+11	+10
建設機械	127	30	40	70	80	0	80	△47	+10
電力	206	40	60	100	40	60	100	△106	-
その他	42	0	30	30	0	30	30	△12	-
調整額	△43	△35	△65	△100	△20	△35	△55	△12	+45
合計	161	150	300	450	320	380	700	+539	+250

(単位：億円)

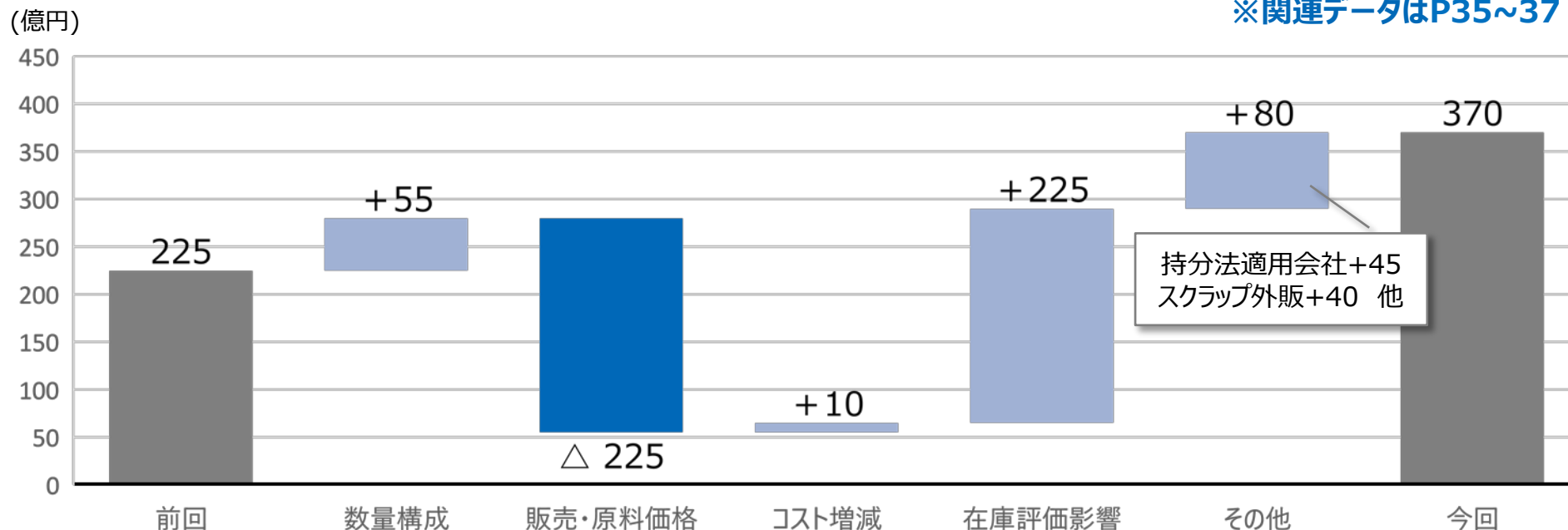
		2020 年度実績	2021年度見通し (前回)			2021年度見通し (今回)			増減	
			①	上期	下期	②	上期	下期	③	③-①
鉄鋼	売上高	5,638	3,200	3,400	6,600	3,480	3,770	7,250	+1,612	+650
	経常損益	△233	105	120	225	120	250	370	+603	+145
	在庫評価影響を除く	△208	△20	160	140	△80	140	60	+268	△80
アルミ板	売上高	1,324	750	700	1,450	780	770	1,550	+226	+100
	経常損益	6	5	20	25	20	10	30	+24	+5
	在庫評価影響を除く	31	0	15	15	10	0	10	△21	△5
合計	売上高	6,963	3,950	4,100	8,050	4,260	4,540	8,800	+1,837	+750
	経常損益	△226	110	140	250	140	260	400	+626	+150
	在庫評価影響を除く	△176	△20	175	155	△70	140	70	+246	△85

鉄鋼

前回：225億円→今回：370億円（前回比+145億円）

- 粗鋼生産：670万t程度（前回比+10万t）
- 販売数量：550万t程度（前回比+10万t）
 - ・自動車向けを中心に総じて需要が増加
- 損益変動要因
 - ・販売数量の増加
 - ・原料価格上昇分の販売価格への転嫁時期のずれなどに伴うメタルスプレッドの悪化
 - ・原料価格上昇に伴う在庫評価影響の改善

※関連データはP35~37



※在庫評価影響には、総平均計算による影響および低価法影響を含む

（単位：億円）

	2020 年度実績 ①	2021年度見通し (前回) ②			2021年度見通し (今回) ③			増減	
		上期	下期		上期	下期		③-①	③-②
売上高	1,324	750	700	1,450	780	770	1,550	+226	+100
経常損益	6	5	20	25	20	10	30	+24	+5
在庫評価影響を除く	31	0	15	15	10	0	10	△21	△5

前回：25億円→今回：30億円（前回比+5億円）

- 販売数量：350千t程度（前回並み）
 - ・自動車向けは中国を中心に需要好調
 - ・飲料用缶材向け、IT・半導体向けは堅調に推移
- 損益変動要因
 - ・アルミ地金市況の上昇に伴う在庫評価影響の改善
 - ・エネルギーコストの上昇

※関連データはP36~37

(単位：億円)

	2020 年度実績 ①	2021年度見通し (前回) ②			2021年度見通し (今回) ③			増減	
		上期	下期		上期	下期		③-①	③-②
売上高	2,381	1,350	1,450	2,800	1,570	1,630	3,200	+819	+400
経常損益	△121	△10	20	10	25	5	30	+151	+20
在庫評価影響を除く	△131	△10	15	5	0	5	5	+136	-

前回：10億円→今回：30億円（前回比+20億円）

■ 販売数量

- ・銅板、アルミ鋳鍛は、半導体向けの需要拡大により増加
- ・サスペンションは、北米における半導体不足に伴う自動車生産減の影響等により減少

■ 損益変動要因

- ・銅市況の上昇に伴う在庫評価影響の改善

※関連データはP36

(単位：億円)

	2020 年度実績 ①	2021年度見通し (前回)			2021年度見通し (今回)			増減	
		上期	下期	②	上期	下期	③	③-①	③-②
売上高	700	330	360	690	370	380	750	+50	+60
経常損益	17	0	10	10	5	5	10	△7	-

前回：10億円→今回：10億円（前回比±0億円）

■ 販売数量

- ・国内：建築鉄骨、自動車向けの需要好調により増加
- ・海外：東南アジア、中国における自動車、建設機械向けの需要好調により増加

■ 損益変動要因

- ・販売数量の増加
- ・鋼材調達コストの増加

※関連データはP36

(単位：億円)

	2020 年度実績 ①	2021年度見通し (前回)			2021年度見通し (今回)			増減	
		上期	下期	②	上期	下期	③	③-①	③-②
売上高	1,753	790	860	1,650	860	840	1,700	△53	+50
経常損益	114	0	35	35	25	25	50	△64	+15
受注高	1,126			1,600 程度			1,650 程度	+520 程度	+50 程度

前回：35億円→今回：50億円（前回比+15億円）

- 受注高
 - ・設備投資の回復に伴い、汎用圧縮機等の受注増加
- 損益変動要因
 - ・固定費を中心としたコスト削減

(単位：億円)

	2020 年度実績 ①	2021年度見通し (前回)			2021年度見通し (今回)			増減	
		上期	下期	②	上期	下期	③	③-①	③-②
売上高	1,361	600	810	1,410	600	820	1,420	+59	+10
経常損益	44	15	30	45	25	30	55	+11	+10
受注高	1,134			1,800 程度			1,800 程度	+670 程度	-

前回：45億円→今回：55億円（前回比+10億円）

- 受注高
 - ・前回並み
- 損益変動要因
 - ・既受注案件の損益改善

(単位：億円)

	2020 年度実績 ①	2021年度見通し (前回)			2021年度見通し (今回)			増減	
		上期	下期	②	上期	下期	③	③-①	③-②
売上高	3,331	1,900	1,700	3,600	2,040	1,860	3,900	+569	+300
経常損益	127	30	40	70	80	0	80	△47	+10

前回：70億円→今回：80億円（前回比+10億円）

■ 販売台数

[油圧ショベル] …増加

中国：需要増加の一方、競合激化により販売減少

その他の地域：東南アジア・欧州を中心に需要回復

[クローラークレーン] …前回並み

■ 損益変動要因

- ・販売エリア・機種構成差

- ・鋼材調達コストの増加

- ・固定費を中心としたコスト削減

(単位：億円)

	2020 年度実績 ①	2021年度見通し (前回)			2021年度見通し (今回)			増減	
		上期	下期	②	上期	下期	③	③-①	③-②
売上高	804	310	480	790	340	500	840	+36	+50
経常損益	206	40	60	100	40	60	100	△106	-

前回：100億円→今回：100億円（前回比±0億円）

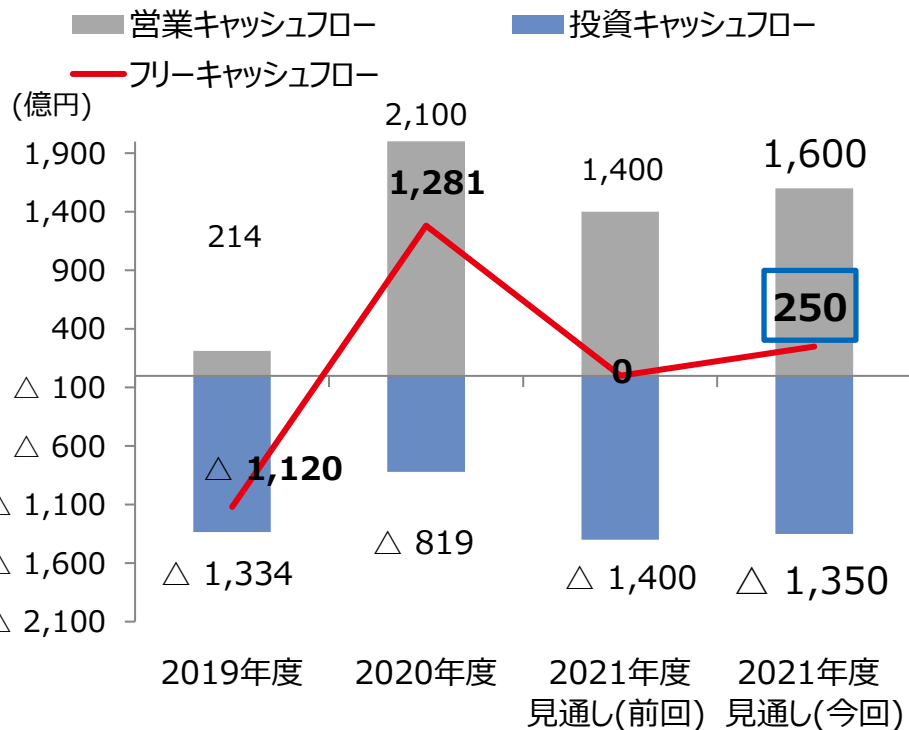
- 販売電力量・・・前回並み
- 販売単価・・・上昇
 - ・燃料価格の値上がりによる影響
- 損益変動要因
 - ・前回並み

- 配当につきましては、継続的かつ安定的に実施していくことを基本としつつ、財政状態、業績の動向、先行きの資金需要などを総合的に考慮して決定することとしております。（配当性向の目安は、親会社株主に帰属する当期純利益（連結）の15%～25%としております）
- この方針のもと、当期の中間配当につきましては、本日の取締役会において、1株につき10円とする方針を決議いたしました。

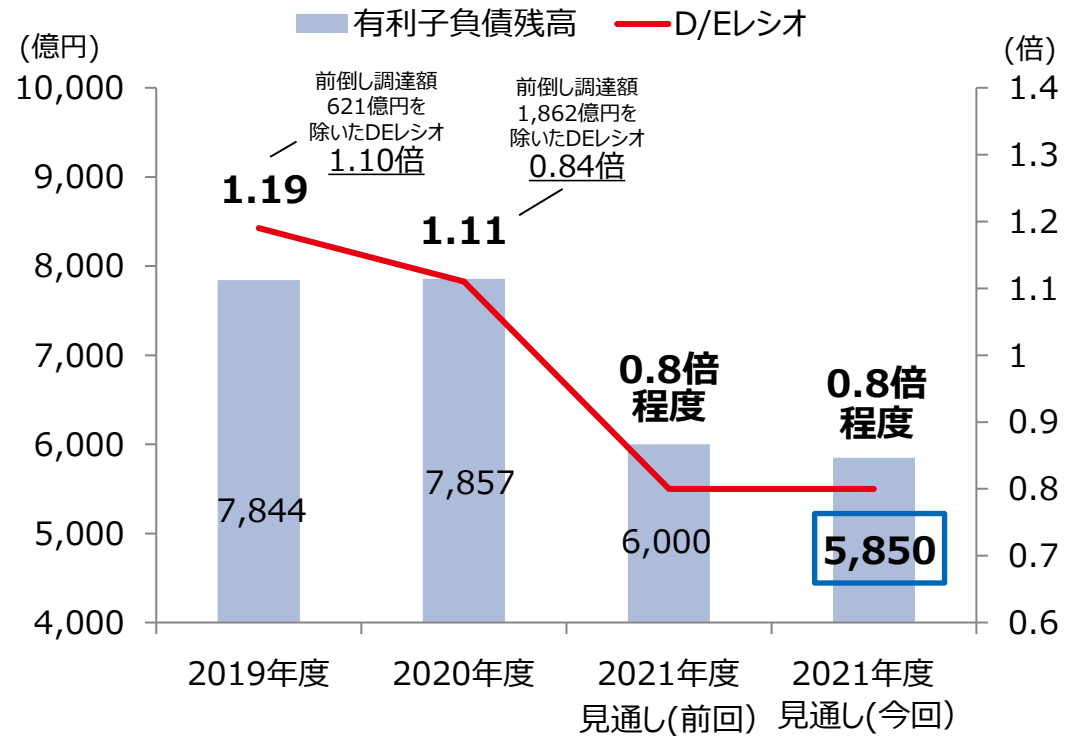
	2020年度			2021年度		
	中間	期末		中間	期末	
配当金額（円/株）	－	10	10	10	未定	未定
配当性向			15.6%			

- 新設した「事業ポートフォリオ管理委員会」にて、キャッシュフロー計画のモニタリング強化を実施中。
- フリーキャッシュフローは、業績および運転資金の改善、設備投資の厳選により、前回見通し比増加の見込み。
- D/Eレシオは、財務基盤の強化に引き続き取り組み、0.8倍程度を計画。
- 直接金融市場からの安定調達を目指すべく、本年6月に期間5年の普通社債100億円を発行。

《フリーキャッシュフロー》



《有利子負債残高・D/Eレシオ》



※フリーキャッシュフローおよびD/Eレシオに、プロジェクトファイナンスは含まない

3. 参考情報

- 2021～2023年度中期経営計画においては、**事業ユニットの管理・評価**に関して、**投下資本利益率（ROIC）**を活用し、**経営資源の効率化と経営基盤の強化**に取り組み中。
- 事業ポートフォリオ管理にあたっては、**収益性（ROIC）と市場成長性**に基づき、**各事業ユニットの位置づけを整理**し、その位置づけに応じた施策を検討・実行するとともに、**戦略に応じた経営資源の最適配分**を推進。
- これらを実行するにあたり、2021年4月に経営審議会の補佐機関として、「**事業ポートフォリオ管理委員会**」と「**設備投資・投融資委員会**」を新たに設置。

事業ポートフォリオ管理委員会

事業ポートフォリオ戦略の立案

- 資産効率や資本コストの観点から、**全社の事業ポートフォリオ戦略と、戦略に合致する最適資本構成の方針**を立案

事業ユニットのモニタリング（四半期毎）

- **事業ユニット単位での業績モニタリングとKPI管理を実施**
- 資本コストを上回る収益レベルに至らないと判断された事業については、今後のあり方を検討の上、経営審議会へ答申

事業部門・事業ユニット

ROICツリーに基づく事業管理

- 各事業部門・事業ユニットにおいては、**ROICツリーを用いて主要KPIを設定し、取り組み施策のPDCA管理**を実施
- 事業評価指標だけではなく、ROIC ツリーによる**現場改善ツール**としてROICを活用

設備投資・投融資委員会

事前審議

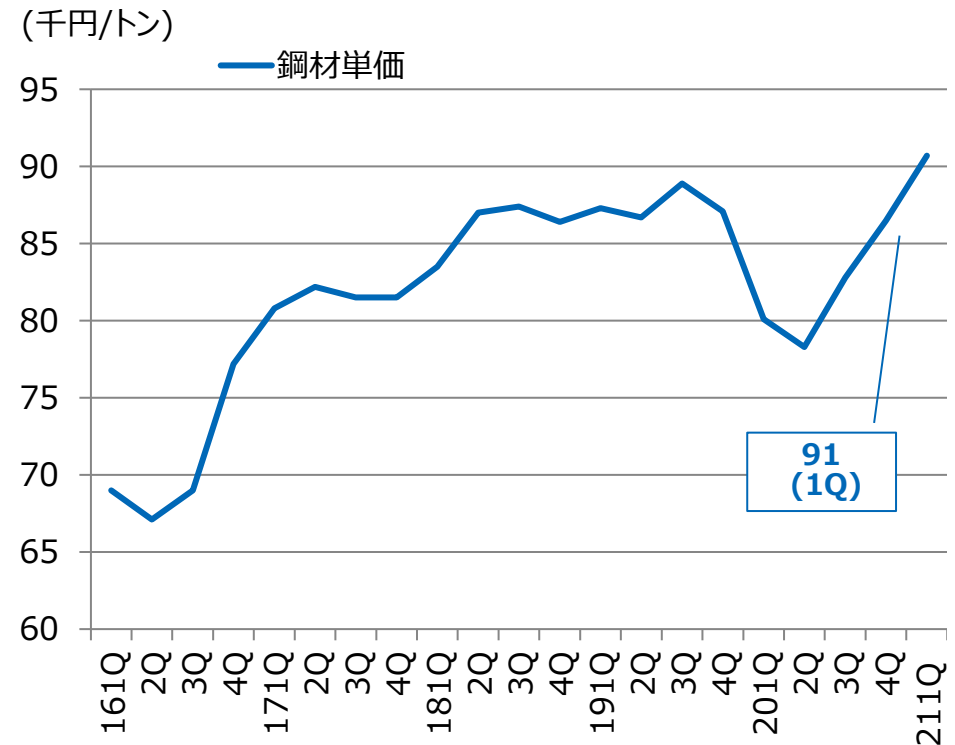
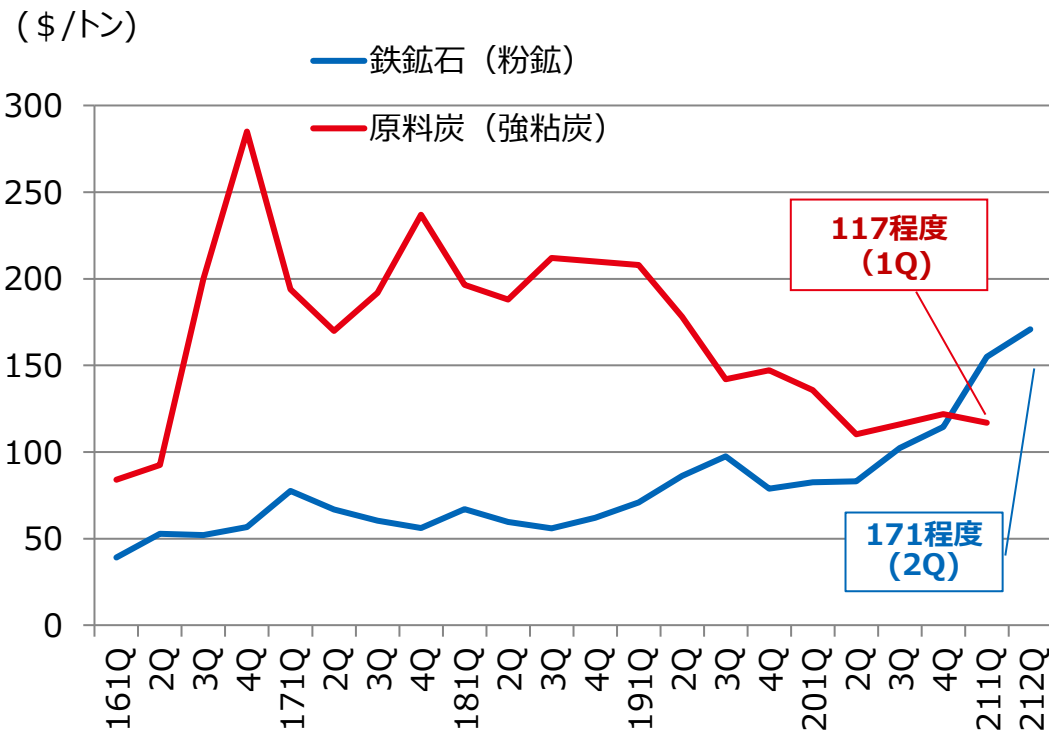
- 重要投資案件について、**事業ポートフォリオ戦略との整合性**を確認
- **投資案件のリスク分析や投資対象の事業自体の評価**を含めた事前審議を実施
- 経営審議会上程の可否を判断し、経営審議会へ委員会意見を答申

投資案件フォロー

- 重要投資案件について、投資実行後の**進捗レビュー**を実施
- **計画未達案件については、重点的にモニタリング**を行い、場合によっては今後のあり方を検討
- レビュー結果を経営審議会へ答申



	2020年度実績				2021年度	
	1Q	上期	下期	年度	1Q	年度
全国粗鋼(万t)	1,810	3,709	4,570	8,278	2,435	4-6月計速報
全国在庫水準(万t)	567	512	507	507	552	5月末速報
薄板3品在庫水準(万t)	430	367	351	351	388	6月末速報
国内自動車生産台数(万台)	127	335	463	798	122	4-5月計



	2020年度実績			2021年度見通し (前回)		2021年度見通し (今回)		
	1Q	上期	通期	上期	通期	1Q	上期	通期
粗鋼生産量 ※ (万t)	117	248	581	330程度	660程度	166	330程度	670程度
鋼材販売量 (万t)	97	204	473	270程度	540程度	136	270程度	550程度
(うち、国内)	(67)	(143)	(344)			(102)		
(うち、輸出)	(30)	(61)	(129)			(34)		
鋼材販売単価 (千円/t)	80.1	79.1	82.3			90.7		
鋼材輸出比率 (金額ベース)	26.4%	25.0%	23.9%			25.5%		
アルミ板販売数量 (千t)	73	152	305	180程度	350程度	88	180程度	350程度
(うち、国内)	(60)	(121)	(236)			(66)		
(うち、海外)	(12)	(30)	(69)			(21)		
アルミ押出販売数量 (千t)	7	12	31	19程度	38程度	9	19程度	38程度
(うち、国内)	(6)	(12)	(29)			(9)		
(うち、海外)	(0)	(0)	(1)			(0)		
銅板販売数量 (千t)	10	19	48	29程度	58程度	15	30程度	61程度
銅管販売数量 (千t)	19	32	67	36程度	72程度	21	40程度	77程度
溶接材料販売数量 (千t)	64	120	242	120程度	250程度	68	130程度	260程度
(うち、国内)	(25)	(49)	(100)			(29)		
(うち、海外)	(38)	(71)	(142)			(40)		

※高砂製作所の電炉の生産数量を含む。

鉄鋼

(単位：億円)

	2020年度実績				2021年度見通し			
	1Q	上期	下期	通期	1Q	上期	下期	通期
鉄鉱石	5	5	30	35	45	60	△35	25
石炭	△5	△15	5	△10	△5	25	△15	10
キャリーオーバー	0	△10	35	25	40	85	△50	35

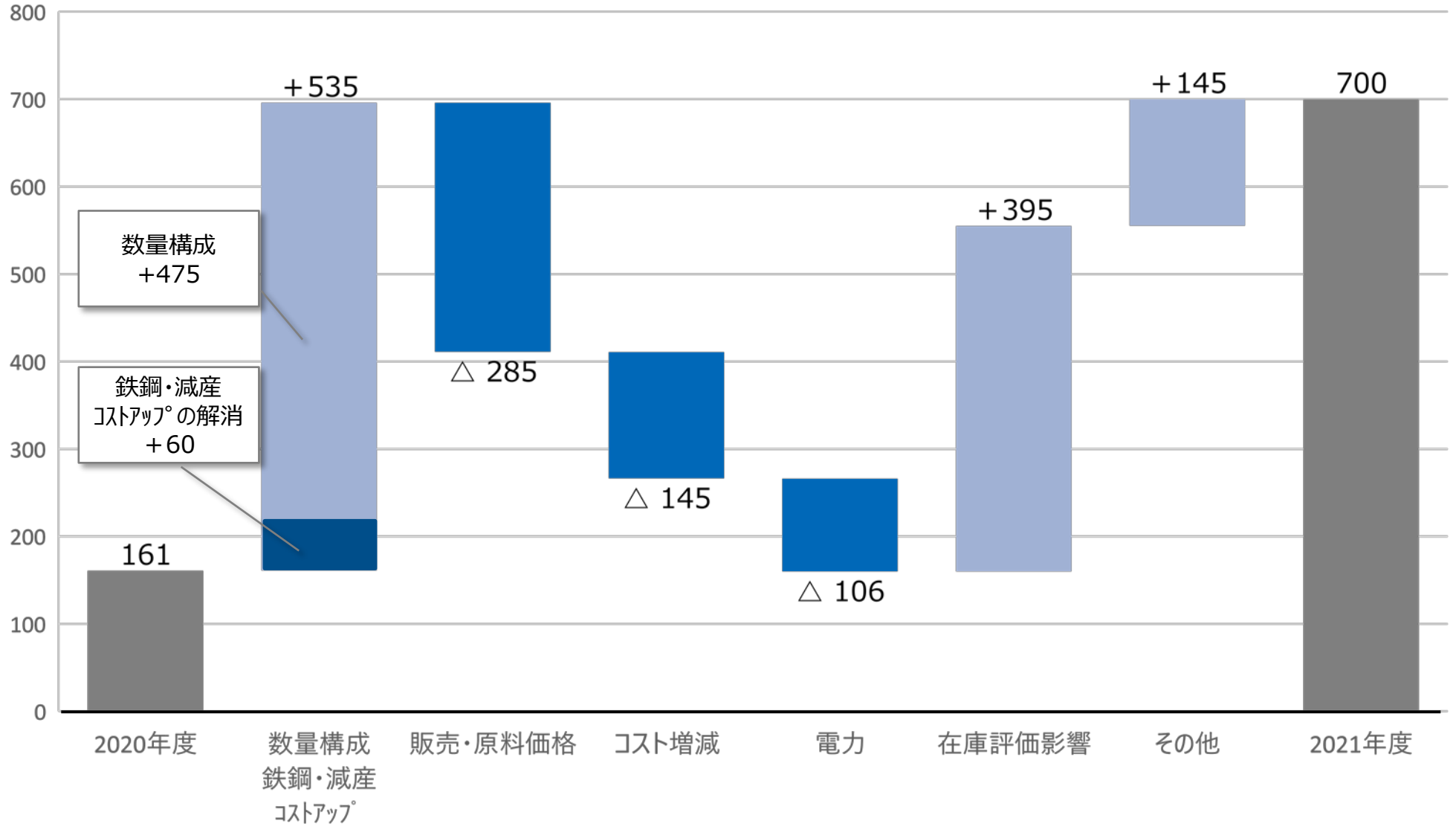
総平均	30	5	△60	△55	140	200	110	310
低価法	△105	△90	120	30	0	0	0	0
在庫評価影響	△75	△85	60	△25	140	200	110	310

アルミ板

(単位：億円)

	2020年度実績				2021年度見通し			
	1Q	上期	下期	通期	1Q	上期	下期	通期
総平均	△10	△15	△10	△25	5	10	10	20
低価法	△5	0	0	0	0	0	0	0
在庫評価影響	△15	△15	△10	△25	5	10	10	20

(億円)



※在庫評価影響には、総平均計算による影響および低価法影響を含む

【経常損益】

(単位：億円)

	2021年度見通し			増減 ②-①
	上期 ①	下期 ②	通期	
鉄鋼アルミ	140	260	400	+120
素形材	25	5	30	△20
溶接	5	5	10	-
機械	25	25	50	-
エンジニアリング	25	30	55	+5
建設機械	80	0	80	△80
電力	40	60	100	+20
その他	0	30	30	+30
調整額	△20	△35	△55	△15
合計	320	380	700	+60

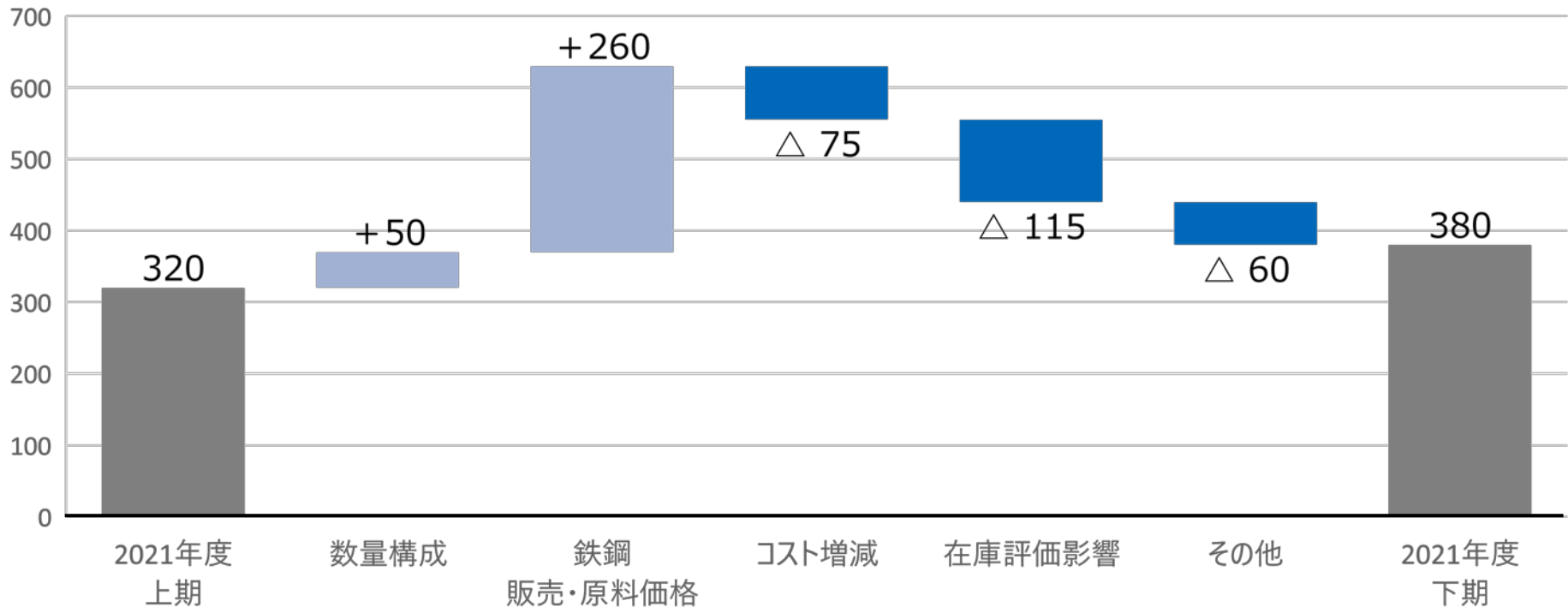
【経常損益】

（単位：億円）

	2021年度見通し		
	上期	下期	通期
全社	320	380	700

+60

（億円）



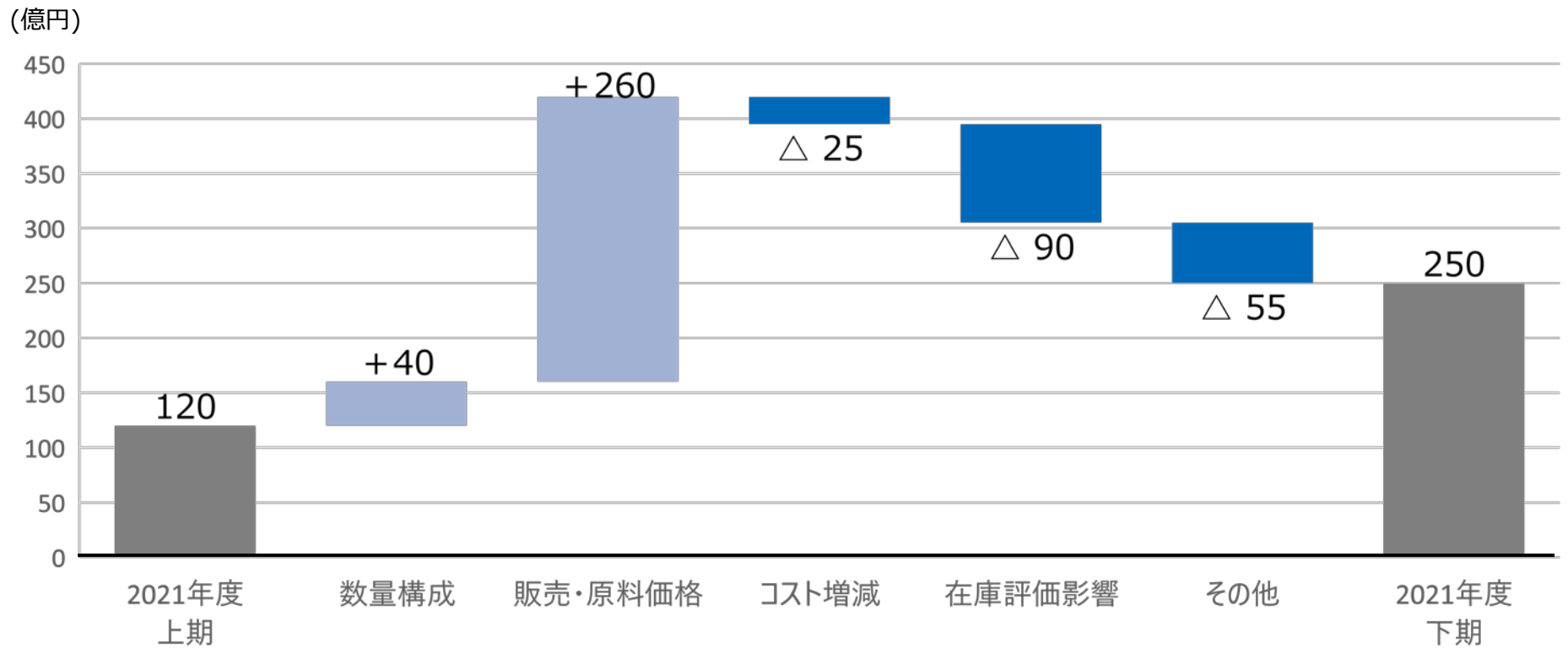
※在庫評価影響には、総平均計算による影響および低価法影響を含む

【経常損益】

（単位：億円）

	2021年度見通し		
	上期	下期	通期
鉄鋼	120	250	370

+130



※在庫評価影響には、総平均計算による影響および低価法影響を含む

(単位：億円)

	2020年度 実績 ①	2021年度 見通し (前回) ②	2021年度 見通し (今回) ③
営業キャッシュフロー	2,100	1,400	1,600
投資キャッシュフロー	△819	△1,400	△1,350
プロジェクトファイナンスを除く フリーキャッシュフロー	1,281	0	250
プロジェクトファイナンスを含む フリーキャッシュフロー	529	△650	△400
プロジェクトファイナンスを除く 現預金残高	3,018	1,150	1,250

増減	
③-①	③-②
△500	+200
△531	+50
△1,031	+250
△929	+250
△1,768	+100

(単位：億円)

	2020年度 実績 ①	2021年度 見通し (前回) ②	2021年度 見通し (今回) ③
設備投資：計上額	1,850	1,500	1,500
設備投資：支払額	1,732	1,800	1,800
減価償却費	1,008	1,050	1,050

増減	
③-①	③-②
△350	-
+68	-
+42	-

	2019年度 実績	2020年度 実績	2021年度 見通し（前回）	2021年度 見通し（今回）
1株当たり当期純損益	△187.55円	64.05円	68.92円	110.27円
有利子負債	9,066億円	9,878億円	8,600億円	8,400億円
プロジェクトファイナンスを除く 有利子負債	7,844億円	7,857億円	6,000億円	5,850億円
D/Eレシオ ※1	※2 1.19倍	※3 1.11倍	0.8倍程度	0.8倍程度
ROS ※4	△0.4%	0.9%	2.4%	3.4%
ROA ※5	△0.3%	0.6%	1.7%	2.7%
ROE ※6	△9.7%	3.4%	3.5%	5.5%
ROIC ※7	0.9%	1.1%	2.6%	4.0%

※1：D/Eレシオ＝有利子負債（IPPプロジェクトファイナンス含まない）／自己資本

※2：前倒し調達（621億円）含む。前倒し調達除く2019年度D/Eレシオ：1.10倍

※3：前倒し調達（1,862億円）含む。前倒し調達除く2020年度D/Eレシオ：0.84倍

※4：売上高経常利益率

※5：経常損益/総資産

※6：親会社株主に帰属する当期純損益/自己資本

※7：税引後事業利益/投下資本

	2020年度実績				2021年度 (前回)	2021年度 (今回)	
	1Q	上期	下期	通期	通期	1Q	通期
USドル (円/\$)	108	107	105	106	109	109	109
中国元 (円/元)	15.2	15.3	16.1	15.7	16.0	17.0	16.0
ユーロ (円/€)	118	121	126	124	130	132	130

KOBELCOが 実現したい未来	「KOBELCOの使命・存在意義」の実行を通じて実現したい社会・未来
	安全・安心で豊かな暮らしの中で、 今と未来の人々が夢や希望を叶えられる世界。
KOBELCOの 使命・存在意義	KOBELCOグループの社会的存在意義であり、果たすべき使命
	個性と技術を活かし合い、 社会課題の解決に挑みつつける。
KOBELCOの 3つの約束	KOBELCOグループの社会に対する約束事であり、グループで共有する価値観
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 信頼される技術、製品、サービスを提供します 2. 社員一人ひとりを活かし、グループの和を尊びます 3. たゆまぬ変革により、新たな価値を創造します
KOBELCOの 6つの誓い	「KOBELCOの3つの約束」を果たすため、品質憲章とともに全社員が実践する行動規範
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高い倫理観とプロ意識の徹底 2. 優れた製品・サービスの提供による社会への貢献 3. 働きやすい職場環境の実現 4. 地域社会との共生 5. 環境への貢献 6. ステークホルダーの尊重

品質憲章

将来見通しに関する注意事項

- ◆ 本日のプレゼンテーションの中には、弊社の予想、確信、期待、意向および戦略など、将来の予測に関する内容が含まれています。これらは、弊社が現在入手可能な情報による判断および仮定に基づいており、判断や仮定に内在する不確定性および今後の事業運営や内外の状況変化による変動可能性など様々な要因によって、実際に生じる結果が予測内容とは実質的に異なってしまふ可能性があります。弊社は、将来予測に関するいかなる内容についても、改訂する義務を負うものではありません。

- ◆ 上記の不確実性および変動の要因としては、以下に挙げる内容を含んでいます。また、要因はこれらに限定されるわけではありません。
 - 主要市場における経済情勢および需要・市況の変動
 - 主要市場における政治情勢や貿易規制等各種規制
 - 為替相場の変動
 - 原材料のアベイラビリティや市況
 - 競争企業の製品・サービス、価格政策、アライアンス、M&Aなどの事業展開
 - 弊社の提携関係に関する提携パートナーの戦略変化